



形成時との関連についての試案をのべ 問題の提言をしている。

- 本地域を「海上の道」という表題で柳田国男(1952)は シプレヤニモタ・シプレリアニュラスらの宝貝を多産することを根拠として 原始日本人の発祥の地と仮定したことがあるが 今だに原始神話伝説にまつわる事例が存在し 民族学者の重要な研究フィールドとされている。一方 海と太陽の織りなす七色の海と 南十字星が輝く暗闇と瞑想と思考が展開される豊かな自然が魅力となって 四季を通して多くの観光客を引きつけている。

5 万分の 1 地質図幅の新刊

# 宮古島

MIYAKO-JIMA

5 万分の 1 地質図幅  
地域地質研究報告

著 者 矢崎清貫(熱科部)  
大山 桂(元所員)  
発 行 工業技術院 地質調査所  
取 扱 先 東京地学協会 (03)261-0809 262-1401

- この図幅地域は 南西琉球弧の北東部に位置する宮古諸島のうちで もっとも陸域の広い図幅である。地質層序関係はすでに出版されている「多良間島」・「伊良部島」および「宮古島北部」らの各図幅と整合するように配慮され かつ古生物層序ならびに重力探査などの結果についても考慮されている。この図幅地域の大部分は 標高 200m 以下の平坦な台地状を呈しかつ断層が多いことから地質図として表現する図化の段階で多くの困難があったようである。その上とかく層位的に問題となる「いわゆる琉球石灰岩」に産出する古生物・岩質および段丘面らを考慮して 従来一括されていた石灰岩を 3つの時元の異なるものとして区分し 段丘形成時と石灰岩の

- ところで地質であるが この地域には中新世末期から完新世にかけての堆積岩がみられるだけで 火成岩や変成岩らは露出していない。中新世末期から更新世早期にかけて堆積したとみられる島尻層群は地域東方に巾の狭い分布がみられるが 層厚は 2000 m内外と厚く岩質から3つの地層名に区分されている。更新世中期から完新世にかけて堆積したとみられる琉球層群は 地域全域にわたっての分布がみられるが 層厚は 200m 内外でほとんど石灰岩によって形成されているが 岩質・古生物などから4つの岩層名に区分されている。
- 期待され 昨年の11月から本地域東方海域(水深280 m)に掘られていた3,710mの石油探査坑井は 本年3月10日に完了し 期待された石油・天然ガス徴は確認されなかったとのことである。

地質ニュース	第322号 6 月号
昭和56年6月1日	定価 ¥540 千実費
編集	発行
発行人	工業技術院 地質調査所
発行所	林 久
	株式会社 実業公報社
	東京都千代田区九段南4の2の12
	Tel. (03) 265-0951(代表)
	振替口座 東京 32466
総発売元	大蔵省印刷局 政府刊行物仕入部
	東京都港区赤坂葵町2
	Tel. (03) 582-4866